川村学園女子大学　アドミッション・ポリシー

川村学園女子大学では、次のような意欲を持った学生を求めています。

１．「自覚ある女性」の育成という川村学園創立の精神を理解し、「感謝の心」を育みつつ、「明確な目標」をもって「自分らしく生きる」女性になろうと思う人

２．本学の特徴である少人数の講義やゼミを通して、コミュニケーション力、問題発見・解決能力といった人間力を高め、自分だけでなく他者をも「育む」能力を身につけたい人

３．教養教育を通して社会人としての素養を身につけるとともに、専門教育によって実社会で生き抜くための実践的なスキルと創造的思考力を獲得し、様々な分野で活躍したい人

【文　学　部】

＜国際英語学科＞

国際英語学科では、「(1) 高度な英語力」、「(2) 世界各国の言語や文化と国際関係に関する知識」、「(3) 情報化時代に対応できるコミュニケーションスキル」をそなえ、国際社会においてビジネス、教育、文化活動、ボランティアなど様々な領域で活躍できる人材の育成を目指しています。とくに、学びの場を学内から実社会へと広げる「アクティブ・ラーニング」による育成を重視します。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

１．TOEIC700 点以上、英検準１級以上の英語力を身につけ、さらに英語で意見を発信したりディスカッションしたりする実践的スキルを磨きたい人
２．海外留学やインターンシップを通して、世界各国の言語や文化・習慣、また国や民族どうしの関係を理解し、それらに的確に対処しつつ活動できる「国際人」になりたい人
３．グローバル時代の高度情報化社会においてコミュニケーションにいかなる問題が生ずるかを理解し、的確に情報を集め、効果的なメッセージを発信する力を身につけたい人
４．中学校・高等学校の英語教員免許、児童英語指導員の資格をとり、さらに採用試験に合格する実力を身につけたい人

＜史学科＞

史学科では、世界と日本の歴史・地理に関する幅広い知識と深い洞察力を備えた人材の育成を目指しています。そのために、日本はもちろん、アジア、ヨーロッパなど世界各地で開花した文明の歴史と地理を学ぶ多彩なカリキュラムを用意しています。将来を見通すことが難しい今日、正確な知識に裏打ちされた豊かな歴史像をもち、自由に発想し、社会に貢献しようとする意欲に燃えている、そのような人材を育成したいと考えています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

１．歴史に興味を持ち、史料の解釈を通して、歴史にロマンをいだこうとする人
２．様々な文明に興味を持ち、異文化を尊重する人
３．歴史をアクティヴに捉え、学校や博物館で歴史教育に従事しようとする人

＜心理学科＞

心理学科では、心の科学である心理学を学ぶことによって、人々を援助し、社会に貢献し、自己の人生を豊かにする知識、技能、態度を身に着けることができます。そのため本学科では心理学の諸領域を網羅するような広い範囲の学習からスタートして、各自の専門を深めていくという学習をすすめています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

１．すなおな探究心を持ち、心について科学的なアプローチが出来る人
２．豊かな感性と他者を思いやる心を持って、人を癒したり、育むことのできる人
３．心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいと思っている人

＜日本文化学科＞

日本文化学科では、日本文化への造詣を深めることにより、バランスの取れた知性と豊かな表現力、そして繊細でしなやかな共生能力を備えた人材の育成を目指しています。具体的には、日本語、日本文学・文化、日本美術、日本の民俗・伝統芸能を柱とし、全体に比較の視点を入れた多彩なカリキュラムにより、日本文化の継承・伝達に貢献できる人材の育成を目的としています。さらに、理論科目だけでなく、「華道」「茶道」「書道」「日本舞踊」「日本画」「能の仕舞・謡い」の実技科目を用意し、日本文化の独自性を世界へ発信できる能力の養成にも力を入れています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

１．日本のことば・文学に関する理解を深めたいと考えている人
２．日本の美術・民俗・芸能に関する理解を深めたいと考えている人
３．茶道・華道・能・日本舞踊・書道・日本画について、実技・実習も含めて理解を深めたいと考えている人

【教 育 学 部】

＜幼児教育学科＞

幼児教育学科は、幼稚園教諭や保育士の免許や資格が取得できる学科です。保育現場では子どもたちと遊ぶ中で、子どもを育てていきます。一般的には、とても楽しそうな職業のように思われがちですが、いろいろな年齢の様々な性格の子どもたちに対応していくには、専門的な知識が必要です。4 年間の中で、子どもの発達についての理論を学んだり、子どもを楽しませる技術を学んだり、保育所や幼稚園の実習を通して、子どもの成長をしっかりバックアップできる学習や研究をしていきます。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

１．子どもと共に生きることができる自覚ある保育者を目指す人
２．全ての≪ひと・もの・こと≫に感謝できる保育者を目指す人
３．幼稚園教諭・保育士・施設職員を目指す人

＜児童教育学科＞

児童教育学科では、建学の精神である「感謝の心」を備え、小学校教師としての使命と責任をもち、情熱をもって取り組む教育実践力のある小学校教員の養成を行います。本学科では、一人ひとりの児童の個性や可能性を引き出せる先生、確かな学力と豊かな感性を育むことのできる先生、児童との心の触れ合いを通じて児童と共に学ぶことができるコミュニケーション能力をもつ先生のように、時代をリードできる小学校教員の養成を目指しています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1．小学校教師としての使命と責任をもち、情熱をもって取り組む小学校教師としての幅広い教養と専門性を身につけたい人
2．小学校教師としての専門的な知識・技能を身につけるとともに、児童の個性や適性を引き出し、確実な学力を育成できる教育実践力を身につけたい人
3．児童一人ひとりの心を理解でき、いじめや不登校など、さまざまな教育問題に適切に対応できるコミュニケーション能力を身につけたい人

【生活創造学部】

＜生活文化学科＞

生活文化学科では、建学の精神である「社会に貢献できる自覚ある女性」を目指し、実践力と文化的感性を身につけた社会学士の栄養士と栄養教諭を育成します。多くの女性が活躍している栄養士は、赤ちゃんから高齢者のすべての年齢層を対象とする職業です。現代社会で起こっている食と健康の問題を解決するためには、栄養・健康科学だけでなく、幅広い社会感覚を身につけるための知識や技術が不可欠です。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1．社会の一員としての自覚を持ち、健全な社会の構築に栄養士・栄養教諭として貢献しようとする意志を持った人
2．多様化した社会を理解し、健康をサポートする栄養指導や地産地消を念頭に置いた商品開発などを通じて、地域社会と積極的にかかわっていきたい（いこう）と考えている人
3．栄養士・栄養教諭資格取得に加え、フードスペシャリストや医療秘書実務士の資格取得など、充実した大学生活を送ろうと考えている人

＜観光文化学科＞

観光文化学科では、インバウンド（外国人旅行者）対応力を育成し、観光業を中心に社会の実践力となる人材の養成を目指しています。これからの日本では、外国人との交流が急増します。また、インバウンド対応力は観光業をはじめ、多くの業界で求められるため、本学科では広くサービス業全体で活躍できる人材を育成したいと考えています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

1．インバウンド対応に関心を持ち、将来、観光や広くサービス業の分野で働きたい人
2．旅行が好きで、日本や世界の観光、歴史・文化に大きな関心を持っている人
3．他の国や地域の人々との交流に関心を持っている人
4．人に接すること、人を楽しませることに何より燃えることの出来る人

川村学園女子大学　カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

川村学園女子大学では、建学の精神に基づき、自覚ある女性として社会に奉仕できる教養人を養成するため、文学部、教育学部、生活創造学部を置く。各学部は以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

１．広範で多様な教養教育、幅広い職業人養成を目的としてすべての学生が履修する全学共通カリキュラムを導入し、さらに高度の学問研究の場を提供するため、各学部は学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。
２．各学科は専門分野の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。大学における学修の集大成として、卒業論文・卒業研究を全学必修とし、指導教授制のもとにていねいな個別指導を行う。
３．全学共通カリキュラムでは、初年次教育として、自立的な学習スキルの養成を目標とする「基礎ゼミナール」、建学の精神の周知を目指す「総合講座」を配置し、豊かで時代に即した教養の修得をはかるために共通教育科目を多様に設定する。
４．学部学科の専門分野を超え、幅広く関心ある科目を履修して学際的な視点を養うことを奨励するため、所属学科の主専攻のほかに「副専攻」の履修プランを用意するとともに、「クロスオーバー学習制度」を導入する。
５．学生各自の個性に基づいて自己を確立し、それをいかに社会に生かすかを考えさせ、職業人としての基礎力を養成するため、初年次からキャリア・プランニング科目を設定する。
６．初年次の基礎ゼミナールから卒業論文・卒業研究の研究指導に至るまで、少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

国際英語学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

１．国際的な視点をそなえた語学のエキスパートを養成することを目的として、英語スキルアップ科目、文化を多角的な視点から研究する「文化」に関する科目、英語教員や児童英語指導員を目指す学生を支援する「言語・教育」に関する科目、国際ビジネスや観光業界を目指す学生を支援する「国際関係」に関する科目を配置する。
２．アクティブ・ラーニング科目「English in Action」シリーズを継続的に学習できるように１年次から３年次まで配置する。英語スキルアップの科目では、習熟度別の少人数制を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行い、英語運用能力に加えて企画力やプレゼンテーション能力を養成する。
３．早期にグローバル社会の諸問題への理解を深めるために１・２年次に国際関係入門の基礎科目を置く。さらに、２年次のコミュニーケーション演習科目（通訳、翻訳）によってキャリアに直結する指導をする。
４．３・４年次にもスキルアップのためのアクティブ・ラーニング科目を設置し、英語によってリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、実践的英語能力を養う。
５．言語コミュニケーション特講と国際コミュニケーション特講を設置し、グローバル時代の高度情報化社会に生じる諸問題について理解を深め、日本の文化を世界に発信する力を養う。
６．留学・海外研修の制度を整備・充実し、希望する学生を支援する。
７．大学における修学の集大成として卒業研究を課し、指導教授制のもとに学生の個性と独創性を尊重した個別指導を行う。

史学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

１．歴史学・地理学の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて専門科目を体系的に配置する。専門科目は歴史学の新しい方法や視点を取り入れ、多くの選択科目を設けて幅広い教養と深い学識が習得できるように配慮する。
２．初年次・２年次に歴史学・地理学に関する基礎的科目を配置し、２年次以降に日本史・アジア史・西洋史・地理の各専門領域の科目が履修できるようにする。また２年次以降には学年進行に合わせて各種の「演習」（ゼミナール）を配置し、学年ごとに必修または選択必修とする。
３．歴史学・地理学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するため、２学年にわたって英語ならびに第二外国語の履修を必修とする。
４．大学における学修の集大成として、最終年次における卒業論文の作成を必修とする。その作成にあたっては指導教授制のもとにていねいな個別指導を行う。
５．高等学校・中学校教員や司書・学芸員などの資格取得を希望する学生に対しては、体制を整備し支援する。
６．史学科が実施する全てのカリキュラムにおいて少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

心理学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。
１．人々の心に科学的にアプローチするための知識および方法論を習得し得るよう、学年進行に合わせて、講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。
２．専門科目は「認知・発達・社会・臨床」の各専門領域に関して配置する。
３．「認知・発達・社会」の各領域における理論、技法を学ぶ講義、実験・実習を配置し、心理学全般の基礎力を養成する。
４．「臨床」領域は他の３領域の基礎の上に心理臨床場面で求められる観点や技法を学べるよう、学外を含めた実習を行う。
５．３年次には各自の研究テーマを選び、４年次には大学における学修の集大成として、各自の研究テーマについて実験・調査を行い、データを解析し、考察し、発表するという卒業論文を個別指導のもとに必修とする。

日本文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。
１．初年次・２年次においては、大学での学習のための方法論の基本に習熟し、日本文化全般に関する基礎的理解を深める。
２．年次が進むにつれ、各人の関心に応じて専門科目を多く履修できるようカリキュラムを体系的に編成する。
専門科目は「日本文学・日本語学系」、および「日本美術・伝統芸能・民俗系」に分けられる。
３．「日本文学・日本語学系」には日本語教員養成のための科目など，国際的視野のもとに日本文化を学ぶ科目を多く設置する。
４．上記の理論的科目のほかに、本学科では特に日本文化を体得できるよう書道・日本舞踊・茶道・華道・日本画・能の仕舞謡いなど実技科目を設ける。
５．３年次には「専門演習」、４年次には「文献演習」で専門的な研鑽を積み、各人が選ぶ研究テーマで卒業論文を作成することとし，それまで以上に徹底した学生の個別指導を実施する。

幼児教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。
１．子どもと共に生きることができる自覚ある保育者、全ての＜ひと・もの・こと＞に感謝できる保育者、自らの保育を常に振り返り成長し続け、社会に貢献することのできる保育者の養成を目指す。
２．幼保連動カリキュラムで２年次より保育者として必要な基礎知識と技術を、体験を通して身に付けられるように、①教育・保育に関する専門的な技能、②乳幼児の心身の発達に関する理解、③表現力の習得、④課題発見・解決力の育成、⑤使命の自覚と社会奉仕の精神の育成、の５つの養成する力をもとに科目を編成する。
３．知識の活用能力、論理的思考力、課題探究力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活において必須となる一般的な能力を育成するために、研究やディスカッションを実践的に積みあげる参加型の少人数授業（ゼミナール）を実施する。
４．専門性の幅を広げるために、保育者に必要とされる多様な技能、技術を身に付け、実践できるよう幅広い演習科目を配置し、現場実習でその学習効果を総合的に活用できるように丁寧な指導を実践する。
５．幼児教育に関する課題だけではなく、広い視野を持って様々な課題を自ら設定し、必要な情報収集・選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探求し、解決するための能力を養うために卒業研究を設定する。

児童教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。
１．学生のニーズに応じた履修を可能にするために、カリキュラムを「教職の専門的知識・技能」「教育実践力」「教職への対策力」「創造力・表現力」「課題解決力」の５分野に区分して、系統的に配置する。
２．小学校教員として要求される深い専門的知識・技能・態度の確実な習得のために、教育学の基礎的理論科目、各教科教育法を中心とした教職の専門科目、教育実習を中心とした実践的・応用的科目を配置する。また、学校等の教育関係施設での体験を通して実践的に学ぶ機会を１年次から４年次まで順次配置する。
３．少人数制ゼミナールを実施する。１年次ではレポート作成や目的に応じた情報収集の方法、２年次ではプレゼンテーションの方法やグループワークの方法を習得し、３年次では学生の興味に応じたゼミナールに所属し、専門性を教育実践に活かせるようにする。
４．４年間の集大成として、個別指導体制のもとに卒業論文を執筆させ、研究成果を発表させる。

生活文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

１．多様な社会環境に適応できる社会力と豊かな感性を有する栄養士・栄養教諭を養成することを目的として、「栄養・健康」と「ライフデザイン」の２領域の科目を配置する。
２．栄養士・栄養教諭としての知識・技術を習得させるため、初年次教育から体系的に栄養士科目を含む「栄養・健康」領域の科目を配置する。
３．「ライフデザイン」領域では、変容する社会を理解し、女性としての生き方・働き方を考え、食と健康問題の解決および和食文化の継承のための科目を設置する。
４．２領域の学修の応用として，外食産業や商品開発などフードビジネス界での活動、栄養学の観点から地域連携・地産地消などの社会貢献活動に関する科目を配置する。
５．３年次よりゼミナールを開始し、これを卒業研究へと継続させることで専門性をさらに高める。

観光文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

１．１年次において、観光および観光文化に関する総論的な知識を習得できる科目を置く。
２．専門教育科目として、「観光基礎」、「観光文化」、「ホスピタリティ」、「観光外国語」、「観光実践」の5つの領域を配置する。
３．「観光基礎」領域には、既存の学問の方法論を用いて観光現象を明らかにする観光理論科目を展開する。
４．「観光文化」領域には、インバウンド対応力の育成を目的として、日本の観光、歴史・文化を学び、その上で海外の観光、歴史・文化を学ぶ科目を展開する。
５．「ホスピタリティ」領域には、ホスピタリティのあり方や各種産業に関する科目を置く。
６．「観光外国語」領域には、異文化理解のための基礎科目と、観光の現場で必要とされる英語を始めとする外国語を学ぶ科目を置く。
７．「観光実践」領域には、理論が実社会においてどのように展開されているかを現場で検証し、課題解決を考える為の科目を置く。
８．３年次には必修科目として観光文化専門演習を置き、４年次の必修科目である卒業研究演習および卒業研究と連続して学ぶ事ができるようにする。また、ゼミナール単位で国内および海外研修旅行を行い、現地でフィールドワークを実施する。
９．「観光実践」科目の他にも、講義及び専門演習に関連した視察や見学を実践し、座学で学んだ理論を国内外の現地・現場で確認する機会を設ける。

川村学園女子大学　ディプロマ・ポリシー「学位授与の方針」

川村学園女子大学では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

１．全学共通カリキュラムの履修を通して、基礎的な学習能力を養うとともに、人間・文化・社会・自然に対する理解を深めていること。
２．学部・学科における体系的学習を通じて専門的知識を修得してその方法論に習熟し、それらを現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけていること。
３．「自覚ある女性」として社会において求められる態度・責任感をもち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

国際英語学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

１．人間・文化・社会・自然に関心を寄せて学際的に学び理解を深めることによって、教養とそれによって裏打ちされた個性を積極的に磨いていること。
２．「文化」、「言語・教育」、「国際関係」に関する専門的知識を習得し、その方法論に習熟し、それらを国際社会において的確に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけていること。
３．アクティブ・ラーニング科目「English in Action」シリーズおよび英語スキルアップの科目を履修し、実践的な英語運用能力を身につけていること。
４．世界各国の文化とグローバル社会の諸問題を理解し、国際社会の諸分野で活躍できる知識とコミュニケーション能力を身につけていること。
５．「自覚ある女性」として国際的な視点をそなえ、国際社会において活躍するために求められる態度と責任感を持ち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

史学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

１．史学科における体系的学習を通じて、古代から現代にいたる人類の文化活動の変遷を学び、歴史学・地理学についての専門的知識を習得しその方法論に習熟していること。
２．地理歴史に関し学修した知識や教養を統合して人間・文化・社会・自然に対する理解を深め、かつそこで培った洞察力・視野・問題意識を現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的技能と創造的思考力を身につけていること。
３．「自覚ある女性」として幅広く深い視野をそなえ、複雑化する現代社会において多方面で活躍するために求められる態度・責任感をもち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（心理学）の学位を授与する。

１．心理学科における体系的学習を通じて、認知・社会・発達・臨床の多領域にわたる専門的知識を習得し、その方法論に習熟していること。
２．多様化し、複雑化する現代社会を生き抜く人々の心を探求し、自己をとりまく環境をより豊かにしていくための役割を担えること。
３．「自覚ある女性」として社会に求められる態度・責任感を持ち、豊かな感性とともに科学的観点を持って社会に奉仕する志を養っていること。

日本文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

１．日本文化に関する全般的理解を土台として、日本のことば、文学、美術、伝統芸能、芸道、民俗等々、各人が特に関心を持つ日本文化の特定分野を中心に専門的知識を習得してその方法論に習熟し、その研究成果を卒業論文で提示し得ていること。
２．日本文化学科で学習した専門的知識や探求の方法論の習得を通じて、国際交流といった場面も含めて社会で要請される実践的な問題発見・解決能力、創造的思考力、さらには表現力をはじめとするコミュニケーション能力を身につけていること。
３．日本文化に関する基本的な教養を基盤として、豊かな感性と理性を備えた自覚ある女性として社会に奉仕、貢献していこうとする志を持っていること。

幼児教育学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（教育学）の学位を授与する。
１．教養を養うと共に、幼児教育・保育について広範かつ専門的に学習し、「すべての＜ひと・もの・こと＞に感謝できる保育者」「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」としての素養を身に付けていること。
２．子どもの内面を理解しようとする意識・姿勢を持つと共に、発達や障害に関する知識を備え、保育において柔軟で適切な援助や指導に取り組めること。
３．幼児教育・保育を行う上で必要な表現技術（音楽・図画工作・体育・言語）を備え、実践する力を修得していること。
４．自らの持つ個性や能力、女性としての自覚を生かして社会に貢献しようとする姿勢を持っていること。

児童教育学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（教育学）の学位を授与する。
１．教育に関する専門的知識・技能・態度を習得し、学校現場との連携による体験的な学習活動を通して、小学校教員として求められる実践力を有すること。
２．児童に対する深い愛情を備え、優れたコミュニケーション能力と「奉仕の精神」をもって児童の心に寄り添える能力を有すること。
３．高いコミュニケーション能力を備え、教員間や保護者・地域社会と連携し学校運営（学級運営）を実行できる能力を有すること。
４．いじめや不登校などさまざまな教育課題に積極的に対応できる課題解決能力を有すること。
５．一人ひとりの児童の個性や可能性を引き出すために、自らの感性を磨き、児童の創造的な学習活動の指導・支援を行う能力を有すること。

生活文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（社会学）の学位を授与する。
１．女性としての自覚をもとに、現代社会で起こっている食と健康の問題を的確にとらえ、実践的技術と創造的思考力を活かしてそれらの問題に取り組み、社会に貢献できる能力を有していること。
２．社会・学校・家庭の場において、栄養士・栄養教諭として栄養指導・給食管理ができる知識・技術を有していること。
３．外食産業・商品開発などフードビジネスの場や、地域連携・地産地消などの社会貢献活動において、栄養・社会学の知識技術を生かし、社会環境に柔軟に適応・協調できる能力を有していること。

観光文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（社会学）の学位を授与する。
１．女性の感性が重視される観光業において、「自覚ある女性」として活躍できる能力を身につけていること。
２．観光という現象について地理学や歴史学、社会学、心理学などの学際的な方法論を用いて考察する力を身につけ、現代社会の多様な問題解決に応用できる力を有すること。
３．日本と海外の観光、歴史・文化に関する知識を身につけ、英語運用能力に習熟し、インバウンド対応力を有すること。また、観光分野のみならず、あらゆる分野でグローバルな活躍ができる能力を有すること。
４．さまざまな実践（研修旅行、視察、見学授業、地域活動、インターンシップ等）を通じて、総合的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワーク、自己管理能力等を身につけていること。

教育学部　社会教育学科　3 つのポリシー

＜アドミッション・ポリシー＞

募集停止のため公開せず

＜カリキュラム・ポリシー＞

社会教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。
1. 生涯学習領域における知識及び方法論を修得し得るよう、学年進行に合わせて専門科目を体系的に配置し、初年次・2 年次においては、基礎を固めるための必修科目を置く。
2. 専門領域として「社会教育」と「学校教育」の 2 領域を配置する。「社会教育」領域では、社会教育専門職員の養成、「学校教育」領域では、中学校・高等学校の教員等の養成など、専門的に活躍できる人材の養成を目指し、それぞれの資格に必要とされる知識・技能を理論的かつ実践的に学べるようにカリキュラムを編成する。
3. 4 年次では、大学における学修の集大成として、卒業研究を必修とし、指導教授制のもとに、ていねいな個別指導を行い、卒業研究発表会を実施する。
4. 公務員資格や教員資格を希望する者に対しては、資格採用試験に必要とされる基礎的、専門的教養を習得させるための体制を整備して支援する。

＜ディプロマ・ポリシー＞

社会教育学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士(教育学)の学位を授与する。
1. 生涯学習において重要な役割を担う社会教育あるいは学校教育の基礎を習得した上で、その専門的知識に習熟し、様々な方法論、実践論等にも精通していること。
2. 現代社会における生活の多様化や社会構造の変化に対応できる柔軟な総合的能力と、地域社会における専門的指導者として、多様な地域活動を行うための計画立案から実践までを実行できること。
3. 創造的思考力や実践的行動力・スキルを身につけていること。
4.「感謝のこころ」を育みつつ、豊かな知性、感性をもって社会に奉仕、貢献する志を有し、また「自覚ある女性」として、社会において求められる責務を充分に理解し、それらを体現することができる能力を身につけていること。

川村学園女子大学　人文科学研究科

【アドミッション・ポリシー】

人文科学研究科では、川村学園女子大学の建学の理念を理解した上で、人間・文化・社会に対する高度な知識を身につけ、社会に貢献しようという意欲のある人を求めている。加えて、各専攻では、それぞれ以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

＜心理学専攻＞

1．心理学に関する基礎的知識を有し、科学的思考のできる人
2．具体的な現実認識のもとに、人間に対して、深く共感的理解のできる人
3．心理臨床の実務体験を基礎とし、更に専門的研究を進めたい人、専門職を目指したい人（臨床心理学領域）
4．人間の心的機能を科学的に分析し、そのメカニズムを探究したい人、専門的研究職を目指したい人（心理行動科学領域）

＜教育学専攻＞

1．理論と実践の往還と自己省察によって、生涯学び続ける小学校教員としての資質・能力を身につけたい人
2．小学校教諭専修免許を取得し、専門的な教育実践力を身につけたい人
3．特別支援教育について学び、インクルーシブ教育を実現するための教育実践力を身につけたい人
4．現職教員で、さらなる教職専門性と研究力を高めたい人

＜比較文化専攻博士課程前期＞

1．人文社会諸科学の研究に必要な基礎的教養を備え、人間の文化と社会が直面する諸問題の解明に真摯に取り組む自覚をもつ人
2．自ら課題を解決する力を身につけ、社会の中核を担い貢献したいと願う人
3．社会人・職業人としての経験を活かし、さらに幅広い視野と深い専門性を身につけて社会へのフィードバックを目指そうと考えている人
4．教育力の向上を目指し、中学校・高等学校教諭専修免許状（英語、社会・地理歴史）を取得したい人

＜比較文化専攻博士課程後期＞

1．修士課程を修了し、あるいはこれと同等の学力を有する人で、本課程の研究領域に深い関心をもつ人
2．人文社会諸科学の研究に必要とされる豊かな教養を備え、幅広い視野と高度な専門性を身につけ、現代社会の問題に積極的に取り組む自覚をもつ人
3．知識基盤社会における中核的職業人として、これまで培ってきた能力をさらに練磨し、社会に貢献しようと考えている人
4．社会人・職業人として得た知見を、最新の研究成果に目を配り専門的な研究手法を身につけることで、博士論文としてまとめ上げたいと考えている人

【カリキュラム・ポリシー】

現代社会の抱える諸問題を見据えて、人間・文化・社会に対する高度な知識と応用力・実践力を身につけ、専門性をもって問題の解決にあたり、社会に貢献できる人材を育成するために、3 専攻の専門に沿ったカリキュラムを編成する。

＜心理学専攻＞

臨床心理学領域：

1．臨床心理学の基礎を必修とし、実習・スーパーヴィジョンにより心理臨床領域の実践力が身につくようカリキュラムを編成する。
2．臨床心理学の基礎と実習のみならず、認知、社会、発達など幅広い科目を設置し、心理学全般の高度な知識、理解力を養成する科目を置く。
3．多様な現場に対応した即戦力・応用力を身につけられるよう、各種の治療的理論や技法、心理療法を修得するための科目を配置する。

心理行動科学領域：

1．最新の研究成果を示し、心理学の専門職に求められる高度な知識や分析力を修得できるようカリキュラムを編成する。
2．認知心理学分野と社会心理学分野を中心に、人間の知的機能や対人関係のメカニズムを深く探究し、主体的に研究を行い得る能力を養成するための科目を設置する。

＜教育学専攻＞

1．理論と実践の往還と自己省察を基盤とした高度な教職専門性を育成するために、小学校教諭専修免許課程を設置する。
2．教育実践力を育成するため、教科教育、道徳教育、特別支援教育の３つの科目群を中心として、理論と実践を往還するカリキュラム編成を行う。
3．小学校教師として使命と責任をもち、情熱をもって取り組む教育実践力を確実にするために、その基礎理論となる教育思想・教育史に関する科目と発達心理学に関する科目を設置する。
4．特別支援教育の科目群では、インクルーシブ教育の推進に要請される教育実践力を育成するために、特別支援教育、学校経営、学級経営等に関する科目を設置するとともに、地域小・中学校、特別支援学校との連携による実践演習の科目を設置する。

＜比較文化専攻前期・後期＞

1．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野の３分野からなる本専攻では、３分野にわたる単位取得を必須として、学際的視野を身につける。
2．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野では、フィールドワークに力点をおき、女性学分野では、ジェンダー視点から諸学問を照らす科目を設置する。
3．大学院における学修の集大成として、最終年次における学位論文の作成を必修とする。その作成にあたっては指導教員制のもとに複数の教員による丁寧で学際的な個別指導を行う。

【ディプロマ・ポリシー】

人文科学研究科は、人文系総合大学院として人類共存のための総合知を探り、実践することを目的としている。その目標を実現するために、幅広い教養に基づいて人間・文化・社会に対する高度な知識と応用力・実践力を身につけ、豊かな感性を持って社会に貢献できる能力を獲得し、所定の単位を修得した院生に学位を授与する。
本研究科の３つの専攻において求める能力は以下の通りである。

＜心理学専攻＞

1．大学院において学んだ高度な知識や方法論、実践論等に精通し、専門領域において求められる分析力、応用力を充分に養っていること
2．時代に求められる、自覚ある専門職・研究者として、その責務を充分に理解し、豊かな感性とともに、常に科学的視座をもち、社会に貢献する志を培っていること
3．心理臨床の場における多様な状況において、充分に対応できる実践力や、治療的理論、技法等に習熟し、かつ、人間に対する、深い洞察力、共感性を身につけていること（臨床心理学領域）
4．専門的領域における最新の知識、研究等に精通し、更に、自らそれを分析、深化する能力を有し、各研究領域において、応用、探究できる能力を身につけていること（心理行動科学領域）

＜教育学専攻＞

1．理論と実践の往還と自己省察による研究方法を習得し、生涯学び続ける教員としての資質・能力を身につけていること
2．教育理論と実践法を習得し、小学校教諭専修免許を取得するとともに教職専門性を備えた教育実践力を身につけていること
3．特別支援教育の理論と実践法を習得し、インクルーシブ教育を推進できる教育実践力を身につけていること

＜比較文化専攻前期・後期＞

1．人間・文化・社会に関心を寄せて学際的に学び理解を深めることによって、高度な知性と教養を積極的に磨いていること
2．専攻分野に関する専門的知識を習得し、その方法論に習熟し、それらを的確に応用しうること
3．幅広く深い視野をそなえ、複雑化する現代社会において多方面で活躍するために求められる態度・責任感を持ち、豊かな感性をもって社会に奉仕する志を養っていること